北海道の学生による新事業の提案コンテスト

第7回キャンパスベンチャー

審査講評

CVG北海道審査委員長　北野　邦尋

地道な研究・調査を評価

2011年3月に東日本大震災という未曾有の大災害が発生しました。また欧州通貨危機など、多くの人たちが将来への不安を感じた11年でした。そのような社会情勢の下、第7回キャンパスベンチャーグランプリ北海道には、これまで最高の76件の応募があり、若い方々の力によって築かれる未来への希望を感じることができました。今回は天使大学、東京農業大学、旭川工業高等専門学校といった新たな大学・学校からの応募があったのも明るい話題です。

応募テーマは、その時の社会情勢を反映したものが多くなるのが当然です。北海道で特に関心が高い〝食〟に関係するものや、コンピューターに加えスマートフォンや家庭用電気機器にまで応用が広まっているインターネットの利用、特にSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用しようとする提案、高齢化社会に対応する介護・福祉に関する提案などが多いのが最近の傾向です。

審査委員会では書類審査およびヒアリング審査を経て、最優秀賞2件、奨励賞3件、努力賞10件の合計15件を入賞プランとして選定しました。

最優秀賞の一つは、旭川工業高等専門学校の佐々木このみさんらの「災害時において多用途使用可能な移乗介助補助具の提供」が獲得しました。この提案は災害時において、作業者や被介護者が装着し、作業者の負担を軽減して避難介護・介助、物資の運搬に利用できる補助具の開発に関するものです。提案の中心となっている「移乗介助補助具」については、すでに特許を取得している点も審査委員会で高く評価されました。

もう一つの最優秀賞は、天使大学の北崎安紗美さんらの「当別町亜麻食品開発プロジェクト」です。北海道においていったん栽培が廃れていたものの、その保健機能に注目が集まり、最近40年ぶりに当別町などで栽培が復活している亜麻を使った食品開発の提案です。実際に「グリッシーニ」や「亜麻の実入りじゃが饅頭」を試作し、当別町のイベントなどで市民に提供した実績を有しています。いうまでもなく北海道はわが国最大の食料供給地であり、食および関連産業の高付加価値化が大きな関心事となっています。この提案は北海道に特徴的な食素材の活用や地域の市民活動との連携などの方向性にマッチしたものということができます。

入賞したプランは地域や社会ニーズのしっかりとした調査、試作や地域社会との連携の実践などを伴ったものが少なくありません。これからキャンパスベンチャーグランプリに応募される若い皆さまの起業へのさらなる情熱と、地道な研究・調査に基づく提案を審査委員一同心よりお待ちしています。

CVG北海道

奨励賞

アクセサリービジネスを通じた「就労継続支援A型事業」

小樽商科大学大学院　小林　理子

小林　理子さん

専門家と連携し支援

《プランの概要》2006年4月の障害者自立支援法施行後、当事者の就労支援事業が展開されている。中でも「就労継続支援A型事業」は実際の就労に極めて近いトレーニングの機会となるが、マネジメントの難しさから普及が伸び悩んでいる。

本プランでは精神福祉医療の専門家と連携を取りつつ、ビジネスに造詣の深い方々の協力を得ることにより、アクセサリー・ビジネスを通して、安定したトレーニング環境と高いスキルを獲得できる支援プログラムを提供する。

地元産業活性化への支援事業～野生株からの納豆菌分離を手始めに～

北海道ハイテクノロジー専門学校　本多　晃登

本多　晃登さん

地域産の豆と菌使用

《プランの概要》納豆は日本古来の発酵食品で、蒸した大豆を納豆菌で発酵させて作られる。細菌は枯草菌の一種で土壌や枯れ草から簡単に得られ、日本各地に根付く菌株が多々ある。一方、大手企業の菌株は安定した数種でまかなっているといわれている。

そこで微生物学的手法に基づき、まだ発見もしくは利用されていない菌株を新たに分離し、地域産の豆とその菌株を使った納豆を作り、特産品として販売できるのではないかと考えた。将来的には他の発酵食品にも広げていきたい。

〝つながる〟音楽アプリ「おとのわ」

公立はこだて未来大学　内藤　皓子　進藤　瞭　野村　智洋　伊藤　修平

内藤　皓子さん

ケータイで新サービス

《プランの概要》私たちは公立はこだて未来大学のプロジェクト学習という授業の一環として、ケータイプロジェクトの活動をしている。その活動で開発したアプリケーションを用いて、新しいサービスを生み出したいと考えた。

「おとのわ」は「SNS（ソーシャルネットワーキング・サービス）」「スマートフォン」「クラウド」の三つに注目し、手軽に〝つながる〟ことができるアプリ。

おとのわにより、ターゲットユーザーである学生に、新しいつながりの手段を提供する。

努力賞

★新しいハスカップの特産物の開発
北海道ハイテクノロジー専門学校　大津　麻未　本郷　結花里　甲斐　賢人

北海道特産のハスカップを使ったカードの手作り工房を提案する。カードとはフルーツと乳製品を用いたスプレッド。

★書籍SNS「Book Society」で人を繋ぐ電子書籍レンタル事業
北海道大学　三神　惇平　小関　加奈

書籍を通して人を豊かにするという経営理念のもと、書籍SNSで「一緒に読む」という読書スタイルを形成する。

★地域資源を利用したおやきの開発
東京農業大学　国広　建斗　増井　瞳　服部　正寛　浅野　僚太

北海道の郷土料理であるいも団子を生地に、オホーツクの海産物を具に用いたおやき風の食品を製造販売する。

★地域連携プロジェクト～『えべチュン巻』で新しい食文化を発信！～
酪農学園大学　緒形　直樹　尾崎　恵莉　赤塚　智英

「EBE－1グランプリ」に出店した経験を生かし、さらに改良を加えて新しい食文化として地域に広く浸透させたい。

★ベンチャーマインド育成～経済活性の足掛かり～
北海道大学　星川　尚久

皆がベンチャーマインドを持つことが経済活性につながる。格差社会解消のきっかけにもなり、今の社会に必要な事業。

★地域SNSを利用したビジネス
小樽商科大学大学院　小泉　博史

商店街に特化したSNSにより、住民（顧客）の地域コミュニティーへの関わりを密接にし、店舗の利用を増やす。

★たのしく！らくらく！ウェブウェディング～忙しいあなただからデキる、最高の結婚式～
北星学園大学　密山　ほのか　佐藤　愛梨　菊地　璃々子

忙しいカップルをサポートし、楽しくて幸せな思い通りの結婚式を挙げさせることができる夢のあるプラン。

★カーシェアリングの新しい
カタチ
北海道大学　村上　文一

個人レベルでの自動車・駐車場の貸し借りを可能にするプラットフォームを提供する。決済の手数料などが主な収入源。

★自然にもひとにもやさしい田舎の便利屋さん
北海学園大学　横市　顕

お年寄りと一緒に買い物に行き、戸別配達ではできない寄り道や商品選択などの醍醐味を感じていただく手伝いをする。

★「おでかけママ」の開発と事業化～子連れママの気軽な外出を応援～
北海道大学大学院　北川　雅嗣

子連れママに気兼ねなくウィンドーショッピングや外食を楽しんでもらうため、優しい店舗の情報を携帯などで提供。

12月21日に札幌市内で実施したヒアリング審査会

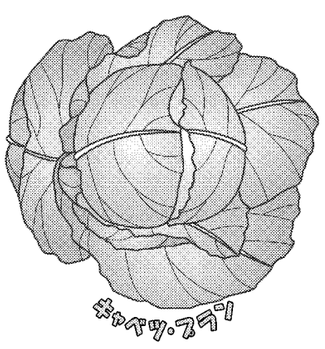
第7回CVG北海道審査委員

審査委員長
北野　邦尋（産業技術総合研究所北海道センター所長）

審査委員
堀　弘明（北海道経済産業局地域経済部新規事業課長）
蓑嶋　裕典（北海道立総合研究機構工業試験場長）
加藤　玲（北海道中小企業総合支援センター政策管理部長）
西岡　純一（北海道科学技術総合振興センター常務理事）
木村　貢（北海道電力総合研究所長）
片岡　伸行（エア・ウォーター北海道カンパニー管理部長）
三谷　淳（北海道ガス執行役員技術開発研究所長）
池田　捨成（北洋銀行執行役員地域産業支援部審議役）
堀川　代志郎（技術士リングネット最高顧問）

私たちは
キャンパスベンチャーグランプリ北海道を
応援しています

北海道の学生による新事業の提案コンテスト
第7回
キャンパスベンチャーグランプリ
北海道



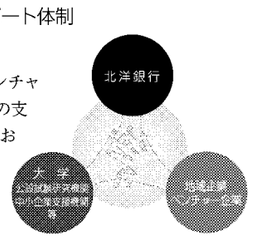
人に、時代に、敏感です。

北洋銀行は
北海道を
サポートします。

Tokyo　首都圏と北海道を結ぶ新しいビジネスネットワーク
「法人部東京情報サービス室」
「東京情報サービス室」では首都圏へ事業拡大を図ろうとされるお取引先に、的確な情報をご提供いたします。特に流通・食品関連のビジネスニーズには、よりタイムリーな対応をいたします。是非お近くの本支店や「東京情報サービス室」にご相談ください。

首都圏における商談会を開催

ネットワークを活かした万全のサポート体制
「地域産業支援部」
「地域産業支援部」では、産学官や各ベンチャーファンドと連携の強化、創業・新事業の支援など新興企業の支援の充実に努めております。
是非お近くの本支店や「地域産業支援部」にご相談ください。



[東京情報サービス室、地域産業支援部のお問い合わせ先]
〒060-8661 北海道札幌市中央区大通西3丁目7番地　北洋銀行 北洋大通センター9階　東京情報サービス室 電話(011)261-2579　地域産業支援部 電話(011)261-1321(銀行営業日)

北洋銀行
www.hokuyobank.co.jp